

「家庭教育応援隊養成講座」第3回地区研修

東青地区 平成30年8月4日(土)県総合社会教育センター 受講者数19名
三八地区 平成30年8月24日(金)八戸市総合福祉会館 受講者数25名

第3回地区研修では、両会場ともに、青森中央短期大学 幼児保育学科 専任講師 松浦 淳 氏 を講師にお招きし、「気になる子どもの理解と対応」について研修を行いました。日頃から興味・関心の高いテーマのため、部分受講される方も多々見られました。

《第3回東青地区研修》8/4(土)

1 講義「気になる子どもの理解と対応」

基本的なアプローチの仕方や「視覚的情報を有効に」、「見通しを持たせる」、「『ダメというだけ』ではダメ」、「メリハリをつけて、淡々と」、「メッセージを読み取ろう」、「パニックを起こしたら」の6つの視点について御講義くださいました。また、受講者自身が『係わり手』として育つためのヒントをいただいたり、小さな空間からの視界を体験し考えたりすることで、多様性に応じた支援や関わり方について、日常でも実践のできる多様性に応じた支援や関わり方について学ぶ機会となりました。さらに、「良き理解者と出会い、独りではないと自ら思えるときに、人は変わる」という成長と変化を支える基盤についても学びました。



講師の松浦淳氏

(1) 「支援」までの流れ

①顔をあげよう ②手を動かそう ③誰かに相談してみよう ④何かを試してみよう

(2) コミュニケーションと認知のずれ

・背景に目を向けてかかわろう (本人の**本当の気持ち**を理解することが重要)

(3) 子どもたちの多様性に応じたかかわり

①**視覚的**情報を有効に ②**見通し**を持たせる ③「ダメというだけ」ではダメ
④**メリハリ**つけて、淡々と ⑤**メッセージ**を読み取ろう

(4) 家族への支援

・よい支援には、支援者の**気持ち**がこもる (しかし、支援者の気持ちが中心になるとズレてくる)
・支援者のご褒美は⇒人間の**成長**にかかわり、立ちあえること

2 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」

進行 県総合社会教育センター職員

今回は、「講座運営者になって進行しよう」というテーマの下、『あおもり親楽プログラム3 支援者編』の冊子を活用しながら、前半は職員が模擬進行して、後半は班内で受講者が交代で進行役を務めました。

(1) 家庭教育支援者として心得ておきたいこと

①支援者は**伴走者** ②支援者も**共に学ぶ**人 ③支援者は**共に聞く**人・**引き出す**人 ④支援者は**つながりをつくる**人 ⑤支援者も**参加者のひとり**

(2) 支援にあたって気をつけたいこと

①聴くとき・話すとき…支援者は**積極的に聴く**。相手の**状況に応じて**対応する。
②講座運営での場面…**学びの場**の雰囲気づくりを心がける。**安心の場**であることを約束する。学びの場等への**参加を促す**。参加者へ**柔軟に対応**する。

3 受講者の感想

- ・子ども達がどうしてそのような行動をしているのかをまず理解することや、その上で対応していく大切さを実感しました。
- ・出会いを通じて、まず家族と子どもと私自身が共に成長し合えることが大切であり、支援者として良い理解者となり支えていけるよう、もっと学ぶ必要性を感じました。
- ・気になる子どもの様子を今までの接し方にプラスすることで、違った対処ができると感じました。
- ・あおもり親楽プログラムⅡでは、「家庭教育支援者に求められるもの」をよく心に留めたいと思いました。
- ・参加者全員に学びの機会を用意するために、時間の管理が必要であること、楽しむ中でもテーマから外れないように、声かけ、アドバイスを行うのが大切であることを学びました。
- ・初めての体験でしたが、開催した講座が楽しいものになるか、有意義なものになるかは、主催者の配慮（時間配分、関わり方）やテーマにもよるということが分かりました。



東青地区研修の様子

《第3回三八地区研修》8/24(金)

1 講義「気になる子どもの理解と対応」

※講義内容は基本的に両地区共通

2 演習「あおもり親楽プログラムⅡ」

※講義内容は基本的に両地区共通

3 受講者の感想

- ・これまでも機会を作っては「気になる子ども」に関する研修や講座等積極的に参加してきましたが、今日ほど丁寧に細かく話してくれた講義は初めてでした。特に「気になる子ども」を抱える家族への支援はずっと私も知りたいことだったので本当に参考になりました。
- ・気になる子どもに接することが多く、日々悩みながら仕事をしていますが、具体的な方法について改めて確かめることができました。家族支援のことはこれまで学ぶ機会がなかったので、今回講座を受けられて良かったです。
- ・午後からのあおもり親楽プログラムⅡの演習では、積極的に発言することができました。参加者が講座に参加して良かった、また次回への期待がもてるような運営、支援者も参加者と共に学ぶ姿勢など、ワークの中で話し合い、大変勉強になりました。
- ・学べば学ぶほど、もっと早くから得ておきたかった知識ばかりです。毎回、班のメンバーが替わるので、いろんな方々の考えが聞けて、とても参考になります。とにもかくにも傾聴が大事ということに気づかされます。



三八地区研修の様子

進行 県総合社会教育センター職員